

2025 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|--------|-----------------|--|--------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 医療安全 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 15 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 3年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 階段教室 |
| 担 当 教 員 | 遠藤 富士子 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 医療安全における看護の責務・役割及び事故分析の方法を理解する。看護・医療における「安全」を理解し、日常の看護・医療の場で発生しやすい事故について認識を深め、事故防止の考え方や知識を学ぶ | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 小テスト、ミニレポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力、臨床力 学研 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、レポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 医療安全に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、過去の事例を調べておく | | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 安全とは何か説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療安全の定義・対象 医療安全に関わる歴史的背景と動向 医療安全に関わる基礎知識 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療安全への取り組みを学び説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 匡の医療安全への取り組み 臨床における実践内容を学ぶ 医療の質の評価 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ヒューマンエラーのメカニズムを、人間の基本特性とエラーを誘発しやすい環境との関係で説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ヒューマンエラーとは 人間特性 エラーを誘発しやすい環境 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 事故分析の考え方と具体的な方法について説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 事故の構造 事故分析に重要なこと 具体的な分析手法の特徴 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | インシデント報告の意味と必要性を説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | インシデント・アクシデント用語の理解 リスクマネジメント 療養環境におけるKYT | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|--------------|----------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護業務を行う際の特性とリスク事故分析方法を説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護業務の特徴的な環境とリスク 原因と結果分析の重要性 事故分析方法 医療事故の種類 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療事故発生時の対応が説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感染の危険性を伴う事象 感染防止対策における標準予防策等 医療事故発生時の対応・事故後の対応 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 終講試験 | | |

2025 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|---------------|-----------------|--|--------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 看護管理 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 15 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 3年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 階段教室 |
| 担 当 教 員 | 杉 敏子 井上 由香 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 看護の対象となる人々に最も良質で効果的な看護を提供するための「しくみ」について学習する。そのための看護部門・看護単位の運営、安全管理など質の高い看護実践を可能にするための「しくみ」を構築する基礎的知識を学ぶ。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、レポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 過去の学習に関連付け医療におけるしくみを理解すること、その中での自己の役割と社会的責任を確認する。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護管理とは・組織とはを理解し説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護管理とは 看護管理の基盤となる知識 組織の理解 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護におけるマネジメントを学び説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | マネジメントとは マネジメントの考え方の変遷 看護におけるマネジメント | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護倫理について説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護者の倫理綱領 看護実践倫理 経営倫理 倫理的葛藤 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護ケアのマネジメントとしてのチーム医療について学び説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | チーム医療の定義 チーム医療に必要な機能 多職種連携と協働 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護ケアのマネジメントとしての日常業務のマネジメントについて学び説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護業務の定義・日常業務のマネジメント 看護基準と看護手順 クリニカルパス 情報の活用 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|--------------|----------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護職のキャリアマネジメントについて学び、その必要性を説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | キャリアとキャリア形成 看護職のキャリア形成 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | マネジメントに必要な知識・技術を理解し説明できる | 配布資料 テキスト | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 組織のマネジメント リーダーシップ・組織の調整 タイムマネジメントとストレスマネジメント | | |

2025 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|-------------------------|-----------------|---|--------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 災害看護・国際看護 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 3年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 階段教室/他 |
| 担 当 教 員 | AMDA・自衛隊・美作消防・赤木 恭美・その他 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <p>災害看護では、東北地方の大震災、風水害、列車事故など様々な災害により、災害教育・訓練の必要性を理解する。災害という異常事態の中で、国内外での救援体制やそれぞれの機関が行う救援活動の全体像から災害看護の役割を理解する。災害急性期の看護活動に必要な判断力、基本的な救援活動、心構えと態度、行動力について総合的に理解し、更に避難所における健康問題や倫理問題、こころのケア高齢者への看護などを学ぶ。自衛隊日本原駐屯地、美作消防署の施設見学の実施。</p> <p>国際看護では世界の健康問題と看護の現状と課題をふまえ、看護の国際協力の活動内容の実際を知り、諸外国で展開される、看護実践や国際的な支援活動について学び、国際的視野を広げる。アメリカ研修の実施。</p> | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 小テスト、ミニレポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、ミニレポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 国内外の災害や国際状況を知り、看護を深めることができるよう、日ごろよりニュースや新聞などに関心を持ちましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 災害看護についての学びを述べられる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 災害看護の歩み 災害医療・看護の基礎知識 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 災害看護についての学びを述べられる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 地震災害看護について学びを述べられる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発災直後から出勤までの看護 急性の看護 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 地震災害看護について学びを述べられる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 亜急性期の看護 慢性期・復興期の看護 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 施設見学・講義内容を積極的に学び、質疑応答ができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 自衛隊見学(日本原駐屯地) 国の防衛・災害派遣・国際貢献について | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|--------------|----------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 施設見学・講義での学びをレポートにまとめることができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 自衛隊見学(日本原駐屯地) 国内の救援活動の現状と課題 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 地域防災の実際を学び、説明することができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 美作消防署・救急車の見学 地域防災・自助と共助の重要性 トリアージ・応急処置について 救急車の要請状況と課題 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 国際看護、世界の健康問題を学び説明することができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国際看護学とは 保健医療分野の開発理念の変遷 世界の健康問題の現状 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 国際協力にいて学び説明することができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国際協力のしくみ 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 国際救援の調整 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 多様な文化を理解、尊重し看護する重要性を説明することができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 多様な文化(文化を考慮した)看護 開発協力と看護 開発途上国と看護 | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 国際的な災害救援および復興支援にかかるガイドラインを理解し、支援の実際を説明することができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国際的な災害救援および復興支援にかかるガイドライン 国際的な災害支援および復興支援の実際 国際救援の課題 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実際の災害支援・復興支援を学び国際救援の課題を説明することができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国際的な災害支援および復興支援の実際 国際救援の課題 | | |
| 第13回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 実際の災害支援・復興支援を学び国際救援の課題を説明することができる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国際的な災害支援および復興支援の実際 国際救援の課題 | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 講義内容を理解し災害看護について説明できる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 災害看護学における倫理・教育・研究 まとめ | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 講義内容を理解し国際看護について説明できる。 | テキスト 配布資料 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国際看護学における倫理・教育・研究 まとめ | | |

2025 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専 門 分 野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|-------------|------------------------|---------|----------------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 看護の統合と実践 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 3年生 | | 学期及び曜時限 | 通年 | 教室名 | 3年A・B教室 |
| 担 当 教 員 | 水谷 圭 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <p>専門職業人として質の高い医療を提供するために生涯にわたり自らの職業能力を高められるように主体的学習を継続できる能力を養う。卒業時到達技術目標に向かい技術のトレーニングを行い、OSCEの演習等で目標達成を目指す。</p> | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| <p>小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。</p> | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| <p>系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院</p> | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| <p>講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、レポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。</p> | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| <p>看護師国家試験の傾向と対策をおこなう。また、援助技術を復習し多重課題に臨む。</p> | | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 多重課題の臨床的判断の構築がわかるようになる | | 配布資料 テキスト 演習問題 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 事例の説明 2. 個人ワーク | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 多重課題の臨床的判断の構築がわかるようになる | | 配布資料 テキスト 演習問題 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 個人ワーク 2. グループワーク | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 多重課題の臨床的判断の構築がわかるようになる | | 配布資料 テキスト 演習問題 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. グループワーク | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 多重課題の臨床的判断の構築がわかるようになる | | 配布資料 テキスト 演習問題 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 発表 2. 振り返り | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 多重課題の臨床的判断の構築がわかるようになる | | 配布資料 テキスト 演習問題 | 配布資料、テキストを読み予習・復習を行う | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 発表 2. 振り返り | | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---------------------|--------------------------------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第13回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | 国試対策授業 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---------------------|--------------------------------|-------------------|
| 第16回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験1 | | |
| 第17回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験1 | | |
| 第18回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験1 | | |
| 第19回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験2 | | |
| 第20回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験2 | | |
| 第21回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験2 | | |
| 第22回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-① | | |
| 第23回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-① | | |
| 第24回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-① | | |
| 第25回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-② | | |

| | | | | | |
|------|------|-------------|---------------------|--------------------------------|----------|
| 第26回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-② | | |
| 第27回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-② | | |
| 第28回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-③ | | |
| 第29回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-③ | | |
| 第30回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 単元履修の評価基準に達することができる | 配布資料 テキスト 看護師国家試験 問題集 | 予習・復習を行う |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ試験3-③ | | |

| 地域・在宅看護論実習 シラバス | |
|-----------------|--|
| 受講年次 | 3年次 |
| 単位数 | 2単位 |
| 授業区分・時間数 | 実習・80時間(1日9時間×8日間+実践活動外学習8時間) |
| 担当者 | 樫 健二 |
| 概要 | 在宅看護の対象(本人及び家族)のニーズ及び生活特性を理解し、健康障害を持ちながらもその人らしい在宅療養生活を送れるよう他職種との連携・協働のあり方を学ぶ。 |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している対象を身体的、精神的、社会的側面から統合的に理解できる 2. 在宅で療養している対象を支援する家族を含めた人々について理解できる 3. 在宅で療養している対象の特徴を踏まえた援助方法を理解し、一部実践ができる 4. 地域における保健・医療・福祉チームの中の看護の役割を理解できる 5. 地域社会における保健医療福祉機関の機能・役割を認識し、連携・協働の重要性を理解し看護者としての在宅医療支援のあり方を考えることができる |
| 授業計画 (内容) | <p>実習期間:訪問看護ステーション6日間+美作市地域包括支援センター2日間+実践活動外学習8時間</p> <p><訪問看護ステーション></p> <p>実習施設:美作市立大原病院訪問看護・訪問看護ステーション田尻・さとう記念病院訪問看護ステーション・津山第一病院訪問看護ステーション・そよかぜ訪問看護ステーション 佐用訪問看護ステーション</p> <p>実習内容:1. 多様な療養の場で、疾病や障がいと共存しながら在宅で健康維持増進を図る援助や支援のあり方を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 訪問看護は、看護師に同行し、在宅療養の場での看護を見学する 3. 在宅看護の基礎的知識・技術の学びを理解する 4. 在宅での保健・医療・福祉の多職種との協働を通して、切れ目のない看護を理解する <p><美作市地域包括支援センター></p> <p>実習施設:美作市地域包括支援センター</p> <p>実習内容:1. 地域包括支援センターの機能や果たす役割を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 生活支援のあり方、介護予防対策、高齢者虐待、地域に住む認知症高齢者対応、介護の相談などの実践から社会資源の活動方法を理解する 3. 個人・家族を中心とした支援での多職種協働の重要性・必要性を学び、地域ケア会議の意味を理解する <p>学内:実践外活動日 (8時間)</p> <p>実習内容:1. 臨地実習で学びを深めるための準備をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 臨地での学びをグループワークでリフレクションをして、学びを深める |
| 評価方法 | 出席状況及び実習目標の到達状況、実習記録、実習態度で総合的に評価する |
| 受講者への要望 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席することなく、医療に従事するチームの一員として行動し、主体的に知識・技術の習得をこころがける。 2. 個人の生活の場に訪問することの意味を考え、利用者に配慮した行動をとること。 |
| 教材・参考文献 | 講義・演習で提示したもの |

成人・老年看護学実習Ⅲ（終末期） シラバス

| | |
|----------|---|
| 受講年次 | 3年次 |
| 単位数 | 2単位 |
| 授業区分・時間数 | 実習・80時間（臨地実習1日9時間×8日＋実践活動外学習8時間） |
| 担当者 | 赤木 恭美 |
| 授業概要 | 疾病からの回復が困難、もしくは人生最期の時にある患者・家族の苦痛や苦悩に気づき、患者のおかれている立場や状況から倫理的側面を含めて、QOLの向上を目指した援助の重要性を学ぶ。 |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 2. 対象の状況に応じたコミュニケーションを心がけ、円滑な人間関係を築くことができる。 3. 安全・安楽に配慮し、生活の再調整・維持に向けた援助が実施できる。 4. 継続看護の必要性和援助の実際を理解できる。 5. 医療・保健・福祉チームの一員としてふさわしい態度を身につけることができる。 6. 自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 |
| 授業計画（内容） | <p>実習期間：臨地実習1日9時間×8日＋実践活動外学習8時間</p> <p>実習施設：美作市立大原病院、医療法人三水会田尻病院、医療法人さとう記念病院</p> <p>実習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年期にある終末期の患者を受け持ち看護過程を展開する。 2. その人らしさに配慮したコミュニケーションや苦痛の緩和に向けた支援を学ぶ。 3. 多職種との連携・協働の実際を見学やカンファレンスの参加を通して学ぶ。 4. 経験できる基本的看護技術の習得を図る。 |
| 評価方法 | 出席状況、実習目標の到達度状況、実習の態度、実習記録で総合的に評価する。 |
| 受講者への要望 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に知識・技術の習得をこころがける。 2. 初めて経験すること（検査や看護技術）は調べてから実習に臨む。 3. 欠席することなく、看護学生として責任ある態度で行動し、実習に臨む。 |
| 教材・参考文献 | 講義・演習で提示したもの |

| 小児看護学実習シラバス | |
|--------------|--|
| 受講年次 | 3年次 |
| 単位数 | 1単位 |
| 授業区分・時間数 | 実習・80時間(病院1日9時間×4日間+保育園1日9時間×3日間+障がい児施設1日8時間×1日間) |
| 担当者 | 赤木 恭美 |
| 授業概要 | 小児各期の成長・発達を理解し、成長発達段階・健康段階にある小児及び家族に応じた援助を行うための知識、技術、態度を学ぶ。 |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の特徴を理解し、成長・発達を促すための援助が理解できる 2. 健康障害によって入院を余儀なくされている子どもと家族について理解できる 3. 健康障害のある子どもの成長発達及び健康回復を促す援助が理解できる |
| 授業計画 (内容) | <p>実習期間:病院1日9時間×4日間+保育園1日9時間×3日間+障がい児施設1日8時間×1日間</p> <p>実習施設:(病院)一般財団法人津山慈風会津山中央病院・公立宍粟総合病院・医療法人伯鳳会赤穂中央病院</p> <p>(保育所)むさしこども園・湯郷こども園・美作北こども園・江見保育園・英田保育園</p> <p>勝田ひまわり園</p> <p>(障がい児施設)津山ひかり学園ひかりの風・旭川荘療育・医療センター</p> <p>実習内容:</p> <p>病院実習 36時間(1日9時間×4日間)</p> <p>保育所実習 27時間(1日9時間×3日間)</p> <p>障がい児施設 17時間(ひかり学園1日9時間+旭川荘1日8時間)</p> |
| 評価方法 | 出席状況、実習目標の到達度状況、実習の態度、実習記録で総合的に評価する |
| 受講者への 要望 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席することなく、看護学生として責任ある態度で行動し、実習に臨む 2. 実習開始前の感染予防対策実施 |
| 教材・ 参考文献 | 講義・演習で提示したもの |

| 精神看護学実習 シラバス | |
|--------------|---|
| 受講年次 | 3年次 |
| 単位数 | 2単位 |
| 授業区分・時間数 | 実習・80時間(臨地実習1日9時間×8日間+実践活動外学習8時間)※1時間=45分 |
| 担当者 | 水谷 圭 |
| 概要 | 精神に障がいをもつ対象とその家族に対して、生活上の問題を理解し、精神保健福祉の機能とそのひと自身が生活を再獲得していく力を支援する看護を学ぶ。 |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神機能に障がいをもつ対象の発達段階を捉え、身体的・精神的・社会的統合体として理解する 2. 患者が自立して日常生活を営むため、回復を促すセルフケア行動の援助を学ぶ 3. 精神障ガイドによる症状をコントロールしながら生活する上で、問題を捉え、患者・家族の思いについて理解する 4. 精神機能に障がいをもつ対象が、社会復帰へとり組んでいくため、社会的資源の活用の仕方について理解する 5. 精神に障がいをもつ対象との関わりを通して、自己の傾向を振り返り、自己洞察することの意義を学ぶ 6. 医師・看護師・他職種それぞれの役割を認識し、対象のニーズを充足する効果的な保健医療福祉チームの協同・連携のあり方について考える |
| 授業計画 (内容) | <p>実習期間:臨地実習1日9時間×8日間+実践活動外学習8時間</p> <p>実習施設: 一般財団法人江原積善会 積善病院・社会医療法人高見徳風会 希望ヶ丘ホスピタル</p> <p>実習内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障がいをもつ患者のアプローチについて対象との関わりの中から効果的な方法考える。 2. 入院から社会復帰の施設について見学を行う。 3. 看護過程の展開をする。 4. 実習では日々のカンファレンスおよびテーマカンファレンスにより看護の学びを共有する。 5. 経験できる基本的看護技術の項目を習得する。 |
| 評価方法 | 出席状況、実習目標の到達状況、実習記録、実習態度で総合的に評価する。 |
| 受講者への 要望 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席することなく、看護学生としての責任ある態度で行動し、実習に臨む。 2. 前回の実習で課題があれば克服 3. 初めて体験すること(検査や看護技術)は、きちんと調べてから実習に臨む。 |
| 教材・ 参考文献 | 講義・演習で提示したもの自己効力、セルフケア能力を高める関わり) |

| 母性看護学実習 シラバス | |
|---------------|--|
| 受講年次・開講学期 | 3年次 |
| 科目区分・単位数 | 2単位 |
| 授業区分・時間数・授業回数 | 実習・80時間、臨地実習1日9時間×6日＋実践活動外学習26時間 |
| 担当者 | 水谷 圭 |
| 概要 | 周産期における母子がダイナミックな生理的変化に適応していく過程と健康を維持・増進していくための看護の実際を学ぶ。 女性の一生涯を通して、対象の健康がより良い状態へ促進させるための看護を学ぶ。 |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子及びその家族が今ある健康をさらに維持増進し、順調な経過をたどるためのウェルネス看護がわかる 2. 女性の一生涯を通して、様々なライフステージにある女性の健康に関わる看護がわかる。 3. 母性看護に関わる関係法規や社会資源の活用についてわかる。 |
| 授業計画 (内容) | <p>実習期間：5日間／週、2週（臨地6日間、実践外活動学習26時間）※1時間＝45分</p> <p>一般財団法人津山慈風会津山中央病院、公立宍粟総合病院、医療法人伯鳳会赤穂中央病院</p> <p>実習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある女性及び母子を受け持ち、必要なケア計画を立案し、看護を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ①妊娠期・分娩期・産褥期における看護 ②新生児期における看護 2. 様々なライフステージにある女性の健康に関わる看護を考え、看護を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ①ライフステージにおける様々な女性の健康問題に関する看護 |
| 評価方法 | 出席状況、実習目標の到達状況、実習記録、実習態度で総合的に評価する。 |
| 受講者への 要望 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席することなく、看護学生としての責任ある態度で行動し、実習に臨む。 2. 初めて経験すること（検査や看護技術）は、きちんと調べてから実習に臨む。 |
| 教材・ 参考文献 | 講義・演習で提示したもの。 |

| 看護の統合と実践実習 シラバス | |
|-----------------|---|
| 受講年次 | 3年次 |
| 単位数 | 2単位 |
| 授業区分・時間数 | 実習・80時間(臨地実習1日9時間×8日間+実践活動外学習8時間)※1時間=45分 |
| 担当者 | 水谷 圭 |
| 授業概要 | 看護チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力の向上を目指す。 |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の状況に応じて、安全に看護を実践する能力を養う。 2. 臨床の場で起こる様々な状況に対する判断力を養う。 3. チーム医療におけるマネジメントの実際を通して基礎的なマネジメント能力を養う。 4. 看護チームの一員であることを自覚し、自らの判断・行動に対する責任感を養う。 5. 看護実践における自己の課題を明確にし、自己研鑽する能力を養う。 |
| 授業計画 (内容) | <p>実習期間: 臨地実習1日9時間×8日間+実践活動外学習8時間</p> <p>実習施設: 美作市立大原病院、医療法人三水会田尻病院、医療法人さとう記念病院 医療法人社団一葉会佐用共立病院、医療法人平野同仁会総合病院津山中央病院 特定医療法人和風会中島病院、医療法人白鳳会赤穂中央病院</p> <p>実習内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①複数患者を受け持ち、看護援助の計画立案や優先順位を決定し実践する。 ②チームリーダーや病棟責任者と行動をともにし、マネジメントの実際を見学する。 ③保健医療チームの活動、他部門との協働の実際を見学する。 ④卒業時到達すべき看護技術の項目を習得する。 |
| 評価方法 | 出席状況、実習目標の到達度状況、実習の態度、実習記録で総合的に評価する |
| 受講者への 要望 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席することなく、医療に従事するチームの一員として行動する。 2. 病院・病棟の管理やチームの一員として行動するので、自覚を持って行動する。 |
| 教材・ 参考文献 | 講義・演習で提示したもの |